

授業科目	コンピュータ概論	単位/時間	141時間			
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	川久保 あゆみ			
授業の目的・テーマ	コンピュータの「基礎理論に関する知識」について幅広く学習する。					
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験3級、2級1部 国家試験・基本情報技術者試験 午前免除試験					
授業の計画	1	2h	テキストⅠ 基礎理論(1-1~1-2)	26	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その6
	2	4h	テキストⅠ 基礎理論(1-3~1-6)	27	2h	テキストⅡ データベース(2-1~2-3)
	3	3h	テキストⅠ 基礎理論(1-7~1-10)	28	2h	テキストⅡ データベース(2-4~2-6)
	4	3h	テキストⅠ 基礎理論(1-11~1-13)	29	3h	テキストⅡ データベース(2-7~2-10)
	5	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その1	30	2h	テキストⅡ データベース(2-11~2-12)
	6	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その2	31	3h	テキストⅡ データベース(2-13~2-15)
	7	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング(2-1~2-6)	32	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その1
	8	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング(2-14~2-17)	33	3h	テキストⅡ ネットワーク(3-1~3-5)
	9	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-1~3-3)	34	3h	テキストⅡ ネットワーク(3-6~3-10)
	10	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-4~3-6)	35	2h	テキストⅡ ネットワーク(3-11~3-13)
	11	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-7~3-8)	36	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その2
	12	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-9~3-10)	37	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-1~4-3)
	13	2h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-11~3-12)	38	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-4~4-6)
	14	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その3	39	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-7~4-9)
	15	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その4	40	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その3
	16	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-1~4-3)	41	44h	問題演習
	17	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-4~4-5)	42		
	18	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-6~4-7)	43		
	19	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その5	44		
	20	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-1~5-3)	45		
	21	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-4~5-5)	46		
	22	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-6~5-7)	47		
	23	4h	テキストⅠ ソフトウェア(5-8~5-11)	48		
	24	3h	テキストⅠ ソフトウェア(5-12~5-13)	49		
	25	3h	テキストⅠ ハードウェア(6-1~6-3)	50		
授業の方法	講義を中心に行う。後半では練習問題を解き全体的な理解度を高める。					
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅠ【ベーステクノロジー編】 TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】					
参考文献	TAC科目A対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○
実務経験	コンピュータ業界・医療系システム開発等の経験を有する。					
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。					
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。					

授業科目	プログラミング		単位/時間	72時間		
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	内藤 正勝		
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験で出題される擬似言語を学び、処理の流れを把握しプログラムの流れを理解出来るようにする。各種検定に出題される擬似言語の問題に対応するための基礎的な力を養う。					
授業の到達目標	基本情報技術者試験科目Bで出題される擬似言語の問題を読解できる力を身に付ける。					
授業の計画	1	1h	アルゴリズムとは何か	26	2h	キュー
	2	2h	変数と定数	27	2h	ハッシュ表
	3	2h	基本制御構造その1 順次と分岐	28	2h	木
	4	1h	変数どおしの内容の交換	29	2h	2分探索木
	5	2h	基本制御構造その2 繰返し	30	2h	ヒープ
	6	2h	繰返しを用いた簡単な処理	31	2h	木の巡回
	7	2h	引数と返却値	32	1h	B木
	8	2h	配列と繰返し処理	33	1h	グラフ
	9	2h	2次元配列	34	2h	最短経路探索
	10	2h	計算量	35	2h	オブジェクト指向の基礎知識
	11	2h	最大値・最小値	36	1h	オブジェクト指向を活用したプログラム
	12	2h	線形探索	37	1h	ファイル処理
	13	2h	2分探索	38	1h	ファイルの併合
	14	2h	選択法	39	1h	ファイルの突合せ
	15	2h	交換法	40	2h	コントロールブレーク
	16	2h	挿入法	41		
	17	2h	再帰	42		
	18	2h	クイックソート	43		
	19	2h	その他の整列アルゴリズム	44		
	20	2h	文字列の照合	45		
	21	2h	文字列の置換	46		
	22	2h	文字列の圧縮	47		
	23	2h	データ構造の基礎知識	48		
	24	2h	リスト	49		
	25	2h	スタック	50		
授業の方法	講義を中心に行う。練習問題実施及び解説を反復し、理解度を高める。					
テキスト	基本情報技術者 試験対策テキストIV【アルゴリズム編】					
参考文献	基本情報技術者科目B試験対策問題集【TAC】他					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.小テスト及び期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	板書を書き写すだけにならないように、講義・解説を見て聞いて、理解することを最重要点とする。					

授業科目	C言語 I	単位/時間	58時間		
開講学科等	システム工学科 1年	担当教員	内藤 正勝		
授業の目的・テーマ	C言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学ぶ。				
授業の到達目標	サーティファイC言語プログラミング能力認定試験3級程度の問題を読解できる力を身に付ける。				
授業の計画	1	3h	C言語とは	26	
	2	3h	変数の宣言と型	27	
	3	2h	編集の代入	28	
	4	3h	標準入力と標準出力①	29	
	5	3h	算術演算と型変換	30	
	6	3h	論理演算子	31	
	7	3h	ビット演算子	32	
	8	3h	1次元配列と2次元配列	33	
	9	3h	判断命令 if・三項演算子	34	
	10	3h	繰返し while	35	
	11	3h	繰返し do-while	36	
	12	3h	繰返し for	37	
	13	3h	文字列操作	38	
	14	3h	標準入力と標準出力②	39	
	15	3h	関数の基本・マクロ	40	
	16	3h	標準ライブラリ関数	41	
	17	3h	構造体・列挙体・共用体	42	
	18	5h	ポインタ	43	
	19	3h	ファイル操作	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。練習問題実施及び解説を反復し、理解度を高める。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理試験合格へのサポートCプログラミング【ワイルド】他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.小テスト及び期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	板書を書き写すだけにならないように、講義・解説を見て聞いて、理解することを最重要点とする。				

授業科目	システム開発	単位/時間	28時間			
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	川久保 あゆみ			
授業の目的・テーマ	コンピュータの「システム開発分野に関する基礎知識」について学習する。					
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験3級、2級1部 国家試験・基本情報技術者試験 午前免除試験					
授業の計画	1	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-1)	26		
	2	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-2)	27		
	3	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-3)	28		
	4	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-4)	29		
	5	2h	テキストⅡ ヒューマンインタフェースとマルチメディア(1-1～1-4)	30		
	6	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-5, 5-6)	31		
	7	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-7)	32		
	8	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-8)	33		
	9	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-9)	34		
	10	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-10, 5-11)	35		
	11	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-1～6-3)	36		
	12	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-4～6-5)	37		
	13	7h	テキストⅡ 確認問題演習	38		
	14			39		
	15			40		
	16			41		
	17			42		
	18			43		
	19			44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義を中心に行う。					
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】					
参考文献	TAC科目A対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○					
実務経験	コンピュータ業界・医療系システム開発等の経験を有する。					
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。					
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。					

授業科目	情報管理と情報戦略	単位/時間	81時間			
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	濱渦 昇			
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験の範囲、マネジメントとストラテジについて、各種技法と計算方法、用語を理解する。					
授業の到達目標	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査、システム戦略、経営戦略、企業活動、法務の用語の意味を説明できる。各種技法の計算ができる。					
授業の計画	1	3h	プロジェクトマネジメントとは、PMBOKの概要、統合マネジメント	26	3h	前期試験復習
	2	3h	スコープマネジメント、スケジュールマネジメント（作業量）	27	3h	前期試験復習、前期試験
	3	3h	スケジュールマネジメント（PERT、その他ツール）	28		
	4	3h	コストマネジメント、品質マネジメント	29		
	5	3h	リスクマネジメント、調達マネジメント、サービスマネジメント	30		
	6	3h	システム運用の基礎、サービス運用とサービス移行のプロセスと機能	31		
	7	3h	サービス戦略とサービス設計のプロセス1	32		
	8	3h	サービス戦略とサービス設計のプロセス2	33		
	9	3h	システム監査の概要、システム監査の実施	34		
	10	3h	情報システム戦略、ビジネスモデルとエンタープライズアーキテクチャ	35		
	11	3h	業務プロセス、ソリューションビジネス	36		
	12	3h	システム活用促進・評価、システム化計画、要件定義	37		
	13	3h	経営戦略の基礎知識、経営戦略手法	38		
	14	3h	経営戦略手法、マーケティング	39		
	15	3h	マーケティング	40		
	16	3h	マーケティング、ビジネス戦略	41		
	17	3h	経営管理システム、技術開発戦略	42		
	18	3h	ビジネスシステム、エンジニアリングシステム、e-ビジネス	43		
	19	3h	経営・組織論、IEとOR	44		
	20	3h	IEとOR	45		
	21	3h	品質管理の技法	46		
	22	3h	財務会計	47		
	23	3h	減価償却とリース、損益分岐点分析	48		
	24	3h	原価の計算、知的財産権、セキュリティ関連法規	49		
	25	3h	労働関連・取引関連法規、その他の関連法規	50		
授業の方法	講義					
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅢ マネジメントと戦略編					
参考文献	なし					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 2. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○
実務経験	SE・プログラマとしてシステム開発を5年					
実務経験の活かし方	マネジメントやストラテジ技術が仕事の中でどのように使われているか具体例を挙げ説明する。					
履修上の注意事項	略語は英語のフルスペルと訳した意味の両方を覚える。配布する練習問題を保存していくこと。					

授業科目	パソコン実習【前期】		単位/時間	30時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	植田 祥平	
授業の目的・テーマ	様々なビジネスシーンで使用される E x c e l の基本を学び、活用できるよう指導する。				
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級の合格を目指す。(後期に受験)				
授業の計画	1	2h	1章 E x c e l の基礎知識	26	
	2	3h	2章 E x c e l 入門	27	
	3	4h	3章 ワークシートの活用(1)	28	
	4	5h	4章 ワークシートの活用(2)	29	
	5	3h	5章 グラフ(1)	30	
	6	3h	6章 グラフ(2)	31	
	7	5h	7章 データベース	32	
	8	5h	8章 E x c e l の応用	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	実技を中心に行う。				
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016				
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級 問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。				
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。				

授業科目	パソコン実習【後期】		単位/時間	74時間		
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	植田 祥平		
授業の目的・テーマ	E x c e l 2 0 1 6 の基本的な操作方法と応用方法を習得する。					
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。					
授業の計画	1	3h	練習問題1 (実践と解説)	26	2h	課題作成
	2	3h	練習問題2 (実践と解説)	27	2h	課題作成
	3	3h	練習問題3 (実践と解説)	28	2h	課題作成
	4	3h	練習問題4 (実践と解説)	29		
	5	3h	練習問題5 (実践と解説)	30		
	6	3h	練習問題6 (実践と解説)	31		
	7	3h	模擬問題1 (実践と解説)	32		
	8	3h	模擬問題2 (実践と解説)	33		
	9	3h	模擬問題3 (実践と解説)	34		
	10	3h	模擬問題4 (実践と解説)	35		
	11	3h	模擬問題5 (実践と解説)	36		
	12	3h	模擬問題6 (実践と解説)	37		
	13	3h	模擬問題7 (実践と解説)	38		
	14	3h	模擬問題8 (実践と解説)	39		
	15	3h	模擬問題9 (実践と解説)	40		
	16	3h	模擬問題10 (実践と解説)	41		
	17	3h	模擬問題11 (実践と解説)	42		
	18	3h	模擬問題12 (実践と解説)	43		
	19	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	44		
	20	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	45		
	21	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	46		
	22	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	47		
	23	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	48		
	24	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	49		
	25	2h	課題作成	50		
授業の方法	実技を中心に行う。					
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016					
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級 問題集					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。					
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。					
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。					

授業科目	アルゴリズム	単位/時間	82時間			
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	森下 浩二			
授業の目的・テーマ	アルゴリズム・C言語の基本的な文法・処理の復習及び実力アップ					
授業の到達目標	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験1級(2/8受験)、サーティファイC言語プログラミング能力認定試験3級(2/4受験)の合格を目標とする。					
授業の計画	1	2h	基本アルゴリズムの復習	26	3h	対策問題
	2	3h	基本アルゴリズムの復習	27	2h	対策問題
	3	3h	基本アルゴリズムの復習	28	3h	対策問題
	4	2h	基本アルゴリズムの復習	29	3h	対策問題
	5	3h	基本アルゴリズムの復習	30	3h	対策問題
	6	3h	基本アルゴリズムの復習	31		
	7	3h	基本アルゴリズムの復習	32		
	8	3h	C言語基本文法の復習	33		
	9	3h	C言語基本文法の復習	34		
	10	3h	C言語基本文法の復習	35		
	11	2h	C言語基本文法の復習	36		
	12	3h	C言語基本文法の復習	37		
	13	3h	C言語基本文法の復習	38		
	14	3h	C言語基本文法の復習	39		
	15	2h	対策問題	40		
	16	3h	対策問題	41		
	17	3h	対策問題	42		
	18	3h	対策問題	43		
	19	2h	対策問題	44		
	20	3h	対策問題	45		
	21	3h	対策問題	46		
	22	2h	対策問題	47		
	23	2h	対策問題	48		
	24	3h	対策問題	49		
	25	3h	対策問題	50		
授業の方法	講義及び対策問題の実施と解説					
テキスト	無し					
参考文献	基本情報技術者アルゴリズムサポート (TAC)、情報処理試験合格へのサポートCプログラミング (ウイネット)					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 検定結果					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目	データベース I	単位/時間	64時間			
開講学科等	システム工学科 1年	担当教員	川村 剛久			
授業の目的 ・テーマ	関係データベースで必要となる基本的なSQL文を習得する。					
授業の 到達目標	SQLの基本的な文法を習得し、データベース操作ができるようになる。 前半は講義形式で行っていき、後半からは演習を行っていく。					
授業の 計画	1	6h	データベースとは 正規化について①	26		
	2	3h	正規化について② E-R図について	27		
	3	3h	SELECT文①	28		
	4	3h	SELECT文②	29		
	5	3h	副問い合わせ	30		
	6	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文	31		
	7	2h	CREATE TABLE文	32		
	8	3h	SELECT文実習①	33		
	9	2h	SELECT文実習②	34		
	10	3h	SELECT文実習③	35		
	11	3h	SELECT文実習④	36		
	12	3h	SELECT文実習⑤	37		
	13	2h	SELECT文実習⑥	38		
	14	3h	SELECT文実習⑦	39		
	15	2h	SELECT文実習⑧	40		
	16	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文実習①	41		
	17	2h	INSERT、UPDATE、DELETE文実習②	42		
	18	3h	CREATE TABLE文実習①	43		
	19	2h	CREATE TABLE文実習②	44		
	20	3h	総合演習①	45		
	21	2h	総合演習②	46		
	22	3h	総合演習③	47		
	23	2h	期末演習課題	48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義・演習を中心に行う。					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理教科書データベーススペシャリスト・データベーススペシャリスト試験過去問題					
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○					
実務経験	コンピュータ業界・自治体関連システムや財務会計システムの開発等の経験を有する。					
実務経験の 活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。 また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。					
履修上の 注意事項	復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること。					

授業科目	簿記		単位／時間	66時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	三浦 洋	
授業の目的 ・テーマ	商業簿記の基礎的知識の習得				
授業の 到達目標	全経簿記能力検定3級の取得				
授業 の 計 画	1	3h	簿記とは、仕訳、勘定科目	26	
	2	3h	貸借対照表、損益計算書	27	
	3	3h	現金、当座預金、小口現金	28	
	4	3h	小口現金出納帳、費用と収益、三分法（分記法）	29	
	5	3h	売上原価対立法、掛取引、返品	30	
	6	3h	商品有高帳、貸付金と借入金	31	
	7	3h	未収金と未払金、前払金と前受金	32	
	8	3h	仮払金と仮受金、立替金と預り金	33	
	9	3h	現金過不足、総勘定元帳への転記	34	
	10	3h	消費税、有価証券	35	
	11	3h	株式会社の資本、株式の発行	36	
	12	3h	減価償却、貸借対照表と損益計算書との関係	37	
	13	3h	固定資産台帳、決算と残高試算表	38	
	14	3h	精算表、決算整理事項	39	
	15	3h	売上原価、貸倒れ	40	
	16	3h	消耗品、費用の繰延べ・見越し	41	
	17	3h	帳簿の締切り、学期末テスト	42	
	18	3h	個別問題（第1問対策）	43	
	19	3h	個別問題（第2、3問対策）	44	
	20	3h	個別問題（第4、5問対策）	45	
	21	3h	模擬Ⅰ	46	
	22	3h	模擬Ⅱ	47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義及び答案練習				
テキスト	全経簿記能力検定3級テキスト及び全経簿記能力検定3級問題集				
参考文献	全経簿記検定3級過去問題				
評価の方法 や基準	平常の授業態度、ミニテスト結果及び学期末テスト結果				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○	
実務経験	国税及び地方税の調査・徴収事務				
実務経験の 活かし方	企業における会計の基本である簿記の重要性を学ぶ				
履修上の 注意事項	電卓は必須、復習は宝、過去問題の答案練習は合格への近道				

授業科目	コミュニケーション	単位/時間	24時間		
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	濱渦 昇		
授業の目的 ・テーマ	ワークショップを通して、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。				
授業の 到達目標	以下のコミュニケーションスキルを身に付けさせる ・自身の考えや自身が持っている情報を正確に相手に伝えることができる。 ・相手の考えや相手が持っている情報を正確に聞き取ることができる				
授業の 計画	1	3h	演習1「試合に間に合わせて」	26	
	2	3h	演習2「若い女性と水夫」	27	
	3	3h	演習4「学生寮 問題」	28	
	4	3h	演習6「アイドルはどこだ！」	29	
	5	3h	演習7「ビジネスパーソンに期待される能力」	30	
	6	3h	演習10「究極の選択」	31	
	7	3h	演習11「平成の歌姫を決めろ」	32	
	8	3h	演習13「報告ゲーム」	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義、実習（課題作成）				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の 活かし方					
履修上の 注意事項	実習に参加できていない学生が出ないように注意をする。				

授業科目	国家試験対策(情報セキュリティ)		単位/時間	24時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	2h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(アルゴリズム)		単位/時間	54時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	森下 浩二	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	3h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストIVアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(オブジェクト指向)		単位/時間	16時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	内藤 正勝	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(模擬試験)		単位/時間	24時間	
開講学科等	システム工学科1年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試験相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	ビジネス実務 I (担任)	単位/時間	28時間			
開講学科等	システム工学科1年	担当教員	濱渦 昇			
授業の目的・テーマ	働くこと、生きることについての「考え方」「思い」を醸成させる。					
授業の到達目標	自己分析をし、自分がこれからどうなりたいかを考えることができる。					
授業の計画	1	3h	今気になっていること	26		
	2	3h	キャリアアンカー	27		
	3	2h	わたしは誰	28		
	4	3h	もったもな、モットー	29		
	5	2h	始める一歩!	30		
	6	3h	自己PRについて	31		
	7	12h	自己PR作成	32		
	8			33		
	9			34		
	10			35		
	11			36		
	12			37		
	13			38		
	14			39		
	15			40		
	16			41		
	17			42		
	18			43		
	19			44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義及び実習					
テキスト	自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック					
参考文献	なし					
評価の方法や基準	授業態度、出席率 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	これからの自分について真剣に考える。					

授業科目	ビジネス実務 I (マナー等)			単位/時間	14時間		
開講学科等	システム工学科1年			担当教員	田中 佳代		
授業の目的・テーマ	人間にとっての最大のテーマである人間関係。これを円滑にする方法を頭で知るだけに留まらず、実際に身に着けているか否かで社会人としての日常生活が著しく異なります。よりよい人間関係を育むことができる人はどう考えているのかを学び、ワークを通じて実際に行動でき、信頼される人になることを目的としています。						
授業の到達目標	相手のことを考えるのは当然のことですが、その前にまず自分を良く知ることが大切です。自分の心の中に潜む問題と向き合い、解決することで人間関係の問題はほとんど解決します。「内側」に「揺るがない自分軸」を作り、身なりや、立ち居振る舞い等「見せる」部分もしっかりイメージできるようにすることを目標とします。						
授業の計画	1	4/16	1h	OR 人間関係・恐れと喜びその1	26		
	2	4/23	1h	人間関係・恐れと喜びその2	27		
	3	4/30	1h	マナーの大切さとは何か	28		
	4	5/7	1h	立ち居振る舞いの基本	29		
	5	5/14	1h	立ち居振る舞いの基本	30		
	6	5/21	1h	立ち居振る舞いの基本	31		
	7	5/28	1h	丁寧な言葉遣い	32		
	8	6/4	1h	丁寧な言葉遣い	33		
	9	6/11	1h	丁寧な言葉遣い	34		
	10	6/18	1h	丁寧な言葉遣い	35		
	11	6/25	1h	丁寧な言葉遣い/電話対応	36		
	12	7/2	1h	丁寧な言葉遣い/電話対応	37		
	13	7/9	1h	来客対応	38		
	14	7/16	1h	来客対応	39		
	15				40		
	16				41		
	17				42		
	18				43		
	19				44		
	20				45		
	21				46		
	22				47		
	23				48		
	24				49		
	25				50		
授業の方法	レクチャー・ロールプレイング・グループワーク						
テキスト	日本マナー・プロトコル協会 マナー・プロトコル基礎知識						
参考文献	ウィネット 実践ビジネスマナー、他						
評価の方法や基準	出席率・態度・身だしなみ・授業への取り組み方・課題・テスト類 複数の担当教員が受けもつ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する						
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験	航空会社(国際線)においてお客様対応、予備校校舎において受付・電話対応および生徒の面接指導を担当						
実務経験の活かし方	社会人としての心構えやマナー、コミュニケーション、来客対応や電話対応などのレクチャーや演習に活かす						
履修上の注意事項	これまで「出来ていたこと」と「出来ていなかったこと」を知り、「出来ていなかったこと」に対しては改善する素直さと、果敢にチャレンジする態度を求める						